

# 松前町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

人口減少の進行により地域公共交通である路線バスは、利用者数の減少が進み経営環境が悪化しており、同じ町内でも遠隔地から中心部への運賃が高額となっていることから、高齢者などの生活弱者にとって路線バスが利用しにくい環境となっていた。

地域住民誰もが安心して利用できる地域公共交通システムの構築するため、高齢者の外出機会や高校生の通学手段の確保、地域間幹線系統への接続も考慮した、地域内フィーダー系統（路線型）「大漁くんバス」を定額低運賃（100円）で平成26年10月に運行を開始し、地域住民の生活の足となるよう取り組みを進めているところである。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

「大漁くんバス」人口1人当たりの年間利用回数

（※人口は申請年度の4/1現在とする）

|    |                |      |                               |
|----|----------------|------|-------------------------------|
| 実績 | H29年10月～H30年9月 | 7.8回 | (H29年4月人口:7,611人 利用者数60,270人) |
|    | H30年10月～R元年9月  | 7.6回 | (H30年4月人口:7,394人 利用者数55,976人) |
|    | R元年10月～R2年9月   | 6.5回 | (H31年4月人口:7,136人 利用者数46,335人) |
|    | R2年10月～R3年9月   | 6.3回 | (R2年4月人口:6,893人 利用者数43,155人)  |
| 目標 | R3年10月～R4年9月   | 7.1回 | (R3年4月人口:6,624人 利用者数47,000人)  |

## 令和4年度事業概要

松前線5系統（地域生活バス「大漁くんバス」）の運行

## 地域公共交通の現況

- 地域生活バス「大漁くんバス」  
（町内・1路線・地域内フィーダー系統）
- 函館バス株式会社（3路線）
  - ・函館松前線（地域間幹線系統）
  - ・木古内松前線（地域間幹線系統）
  - ・小砂子線（上ノ国町地域内フィーダー系統）
- スクールバス（5路線）

## 協議会開催状況

### ○令和4年6月20日 第35回協議会開催

報告事項

- 1 「大漁くんバス」の運行状況について
- 2 令和4年度松前さくらまつり期間中のシャトルバス運行について

協議事項

- 1 松前町地域公共交通活性化協議会規約の一部変更について
- 2 松前町地域公共交通活性化協議会委員改選に伴う副会長及び監査の互選について
- 3 地域内フィーダー系統維持計画の承認について
- 4 松前町地域公共交通計画の策定について
- 5 令和4年度 松前町地域公共交通活性化協議会予算(案)について
- 6 松前町地域公共交通計画策定調査業務の委託について

### ○令和5年1月6日～18日 第36回協議会開催(書面会議)

報告事項

- 1 「大漁くんバス」の令和3補助年度実績報告及び運行状況について
- 2 松前町地域公共交通計画策定調査業務進捗状況について

協議事項

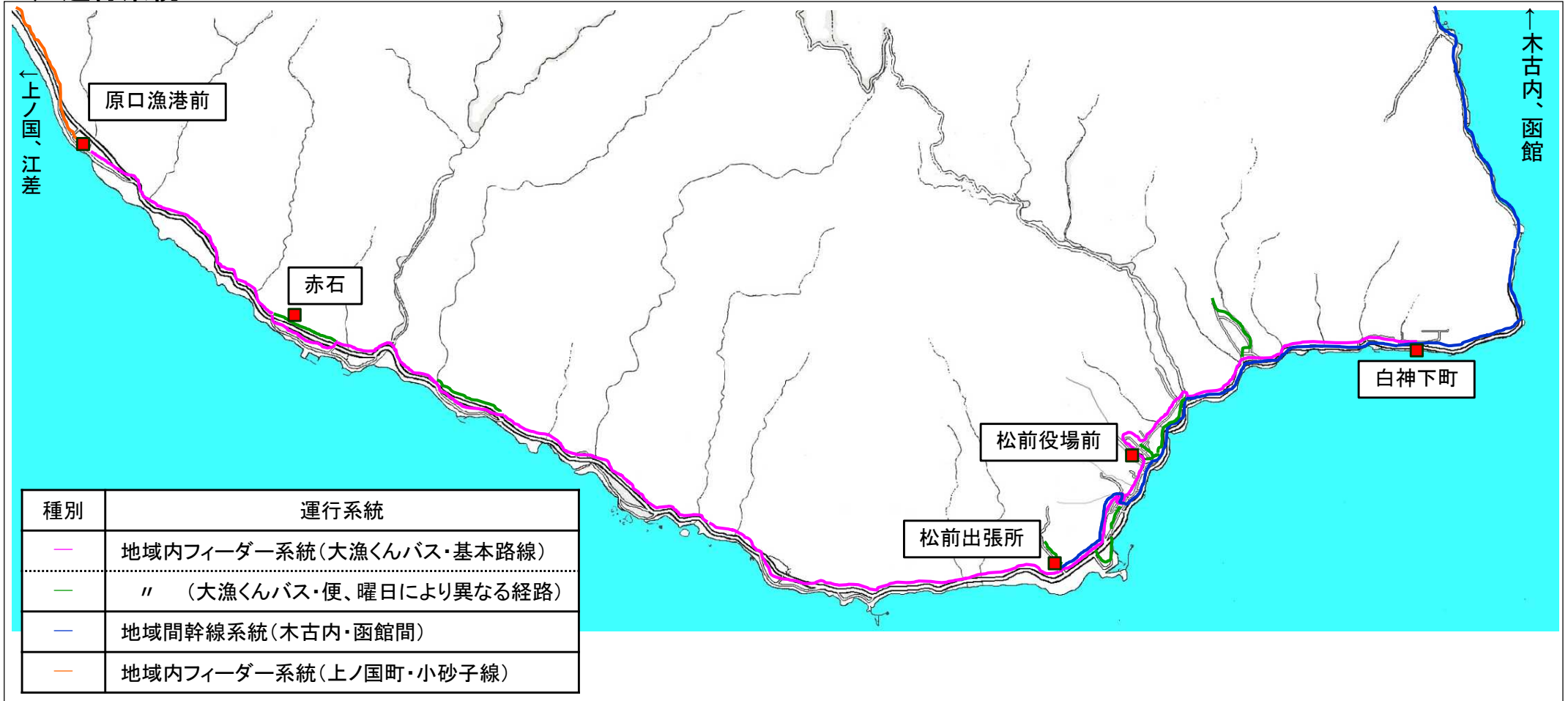
- 1 地域内フィーダー系統確保維持計画 事業評価の承認について
- 2 松前町地域公共交通計画策定調査業務 事業評価の承認について
- 3 地域公共交通バリア解消促進等事業 事業評価の承認について

# 令和4年度事業の実施状況

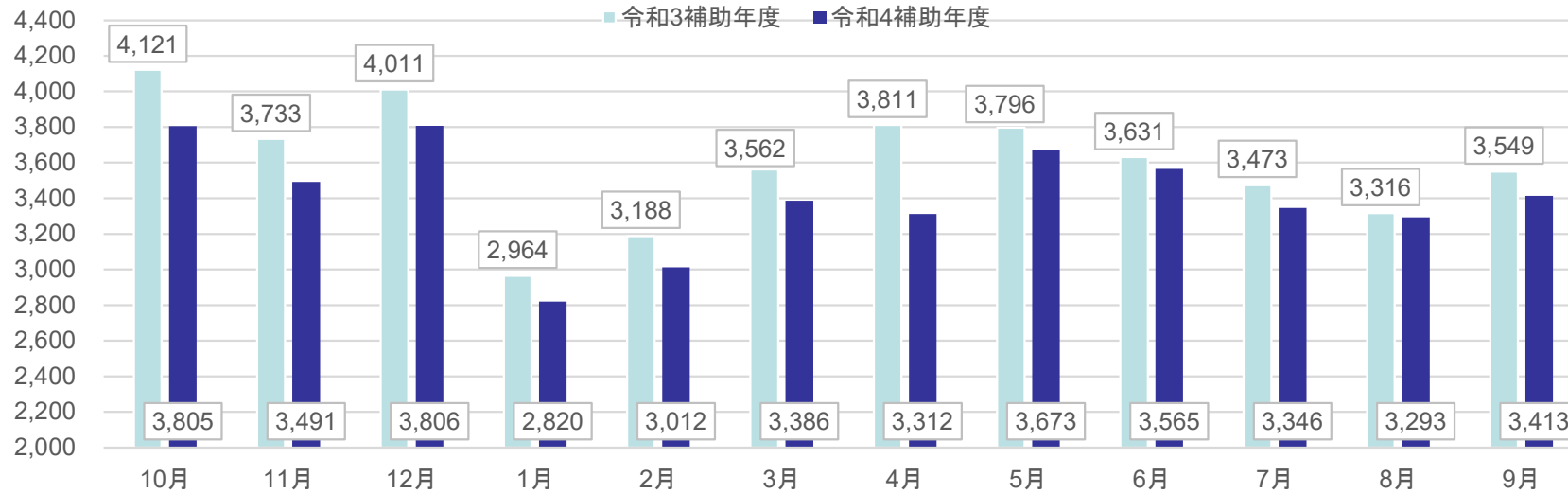
## 1) プロセス、創意工夫

- ・地域の路線バス空白地域の解消と高齢者の外出機会の確保、既存の町内路線、目的バスの一部を集約し、平成26年10月から定額低運賃（100円）の地域生活バス「大漁くんバス」を運行
- ・利用者からの要望、推移などを踏まえ、路線の延伸や減便など見直しを実施
- ・平成29年6月に「豊岡」及び「町営団地前」停留所にバス待合所を設置し、利用環境を向上
- ・時刻表をダイヤ改正の有無に関わらず年1回（4月）とダイヤ改正時に全戸配布
- ・令和3年4月からIC乗車券を導入し利用者の利便性の向上を図った

## 2) 運行系統



### 3) 利用実績

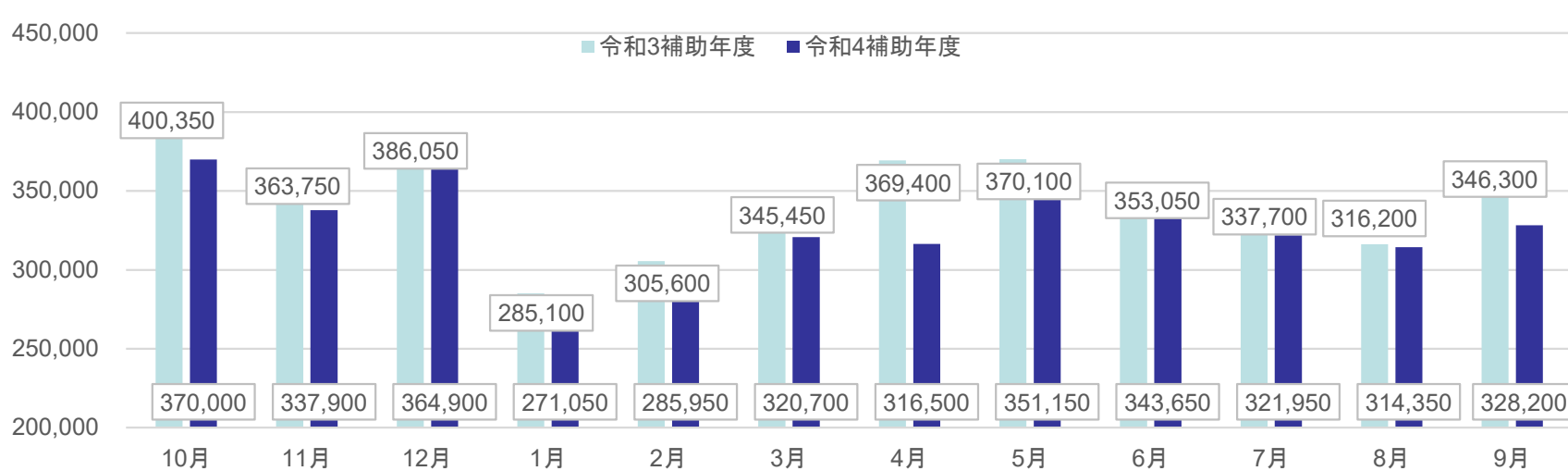


■ 令和3補助年度実績  
 利用者数 43,155人  
 1人利用回数 6.3回  
 (内IC乗車券利用者4,230人)

■ 令和4補助年度実績  
 利用者数 40,922人  
 1人利用回数 6.2回  
 (内IC乗車券利用者10,683人)

※「1人利用回数」は、「人口1人当たりの年間利用回数」  
 ※地域内フィーダー系統対象以外の「大漁くんバス」実績を含む。

### 4) 収入実績



■ 令和3年度実績  
 4,179,050円

■ 令和4年度実績  
 3,926,300円

※地域内フィーダー系統対象以外の「大漁くんバス」実績を含む。

## 5) 事業実施の適切性

事業の実施により、高齢者の外出促進や高校生の通学など地域住民の生活の足として利用されており、事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されました。

## 6) 目標・効果達成状況

住民の利便性向上と運行による地域経済への効果波及を目標として掲げ、定額低運賃のバスとして定着し、買い物や通院などに幅広く利用されており、高齢者の外出機会の促進については、バス事業者への聞き取りや年金支給日に利用者が多くなっている傾向がデータから見て取れるほか、ICカード導入による利便性の向上が図られ、買い物客の増加など人が動くことによる経済効果などで地域活性化につながっています。

しかし、令和4補助年度における利用者の目標は、新型コロナウイルス感染症拡大前と同水準の人口1人当たりの年間利用回数を7.1回(年間乗車人数47,000人)と設定しましたが、依然として新型コロナウイルス感染症拡大防止措置による外出抑制や、町民の行動変化により、実績では6.2回(40,922人)と目標値を下回りました。

## 7) 事業の今後の改善点

新型コロナウイルス感染症拡大防止措置に伴う外出抑制や町民の行動変化の影響のほかに、人口減少に伴う利用者の減少が顕著化してきています。

今後も高齢化が進むにつれ、路線バスの確保維持の重要性は高まることから、運行経路や運行ダイヤなど利用者のニーズを的確に把握し、より利用しやすい環境を整えるとともに、ICカード乗車券の利用促進など町広報紙によるPRを行い乗車人数を確保維持していきたいと考えます。

## 8) 地方運輸局における二次評価結果

(令和5年度分と併せて評価)